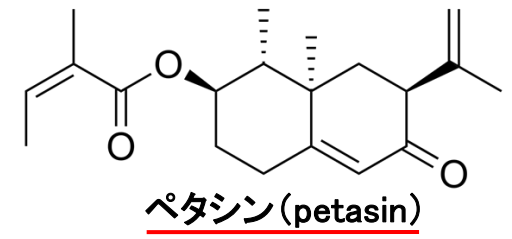


# フキノトウの苦味成分「ペタシン」の抗がん作用

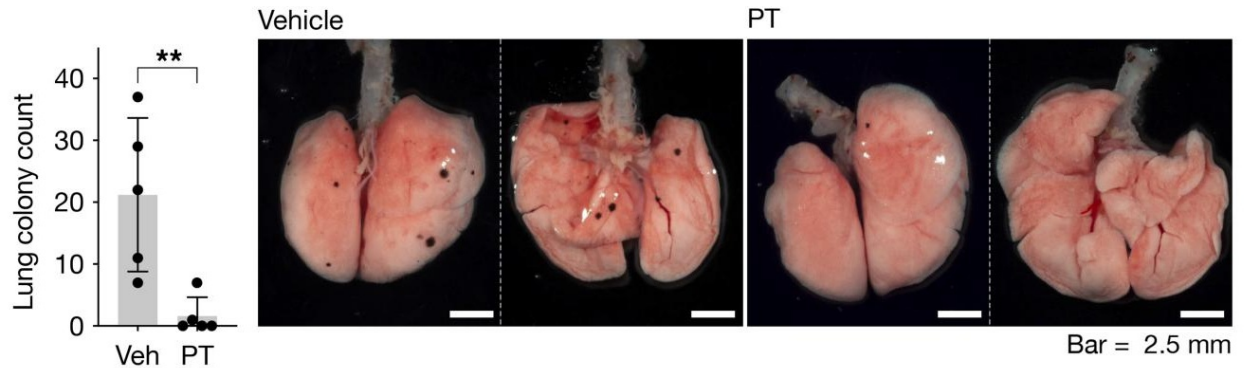
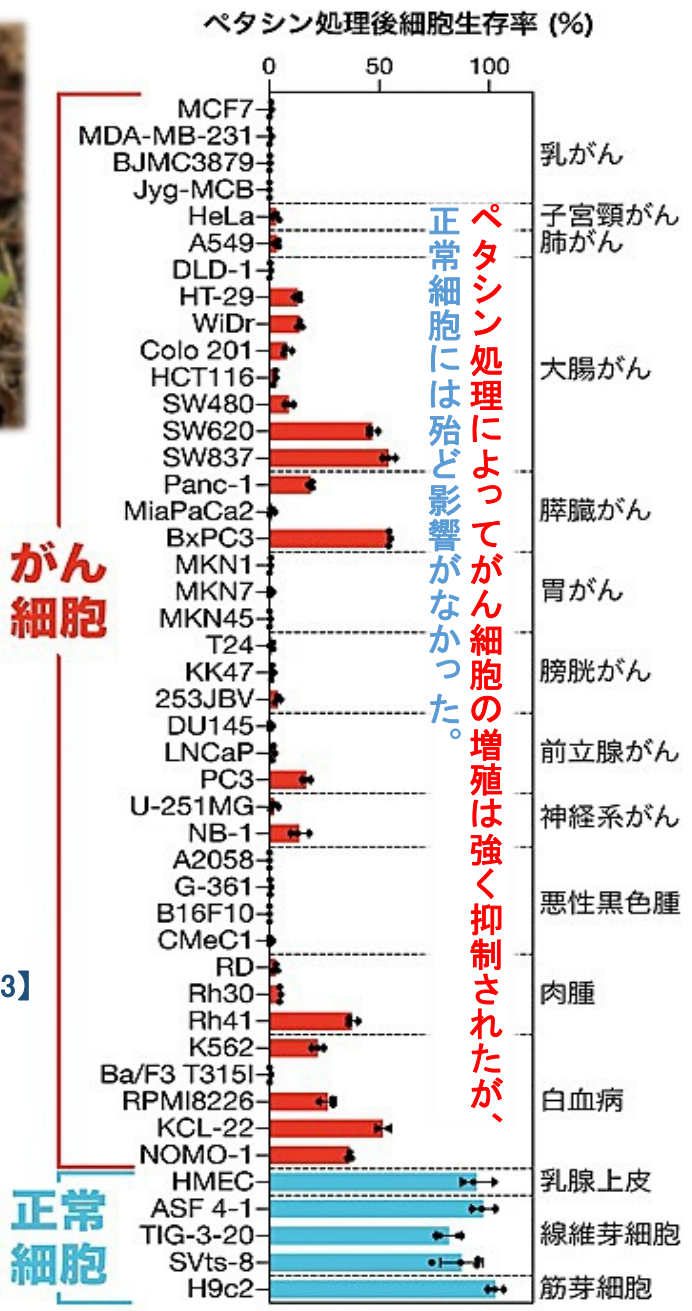


ペタシンは、特にフキノトウに多く含まれている苦味成分である。

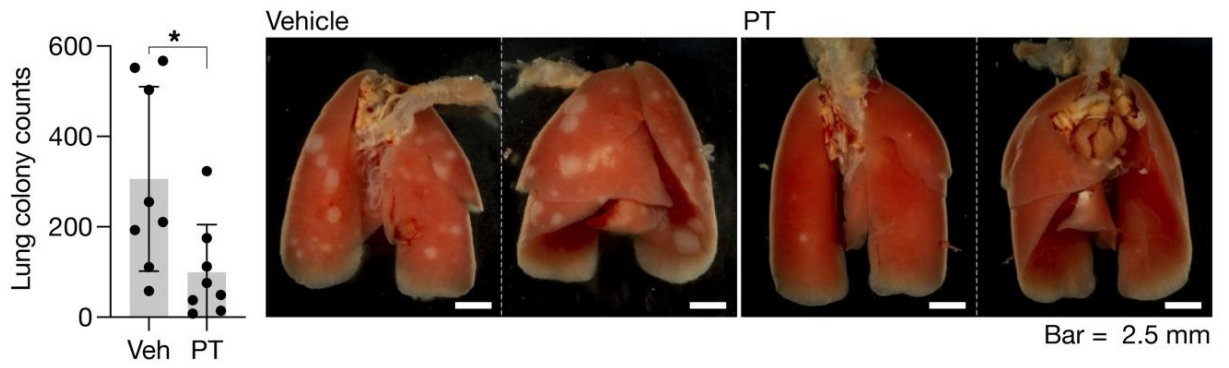
【右図の出典: 岐阜大学大学院 連合創薬医療情報研究科 Press Release(R3/8/26), および J Clin Invest. 2021;131(17):e139933】

ペタシンには、細胞レベル、及び動物実験において、様々ながんに対する、強力な抗がん作用が確認されている。

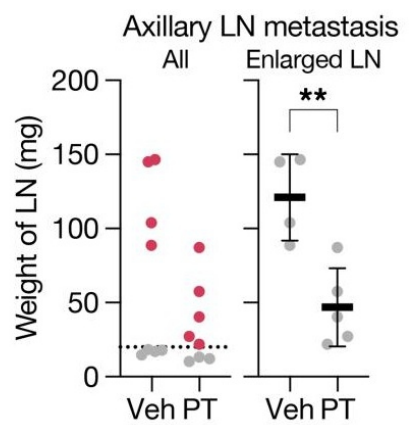
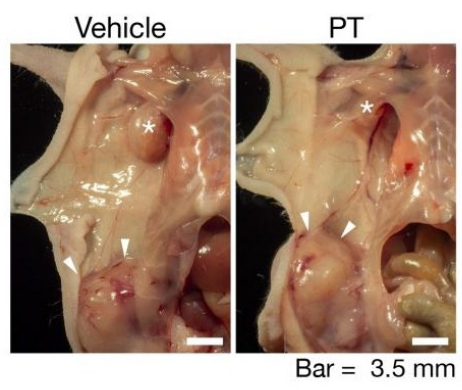
<作成: stnv基礎医学研究室>



悪性黒色腫細胞株 (B16F10) を静脈内に注射すると、普通は肺にて悪性黒色腫細胞のコロニー形成が見られるが、ペタシン (PT) を投与すると、コロニー形成が著しく阻害された (即ち、肺への転移が著しく抑制された)。



乳がん細胞株 (Jyg-MCB) を移植すると、リンパ節や肺への転移を起こす自然転移モデルマウスを用い、これにペタシン (PT) を投与すると、肺への転移が抑制された。



上記のモデルマウスの実験において、腋窩リンパ節への転移を調べた結果、ペタシン (PT) を投与した場合、リンパ節に転移した腫瘍の拡大が抑制されていた。

(写真中のアスタリスク: 拡大した腋窩リンパ節。矢じり: 原発腫瘍。グラフの赤い点: リンパ節の重量。破線: リンパ節拡大のしきい値)